

公益社団法人日本山岳会埼玉支部
2024年（令和6年）度 活動方針

警察庁がまとめた令和5年夏季（7～8月）における全国の山岳遭難件数は、前年同期比の70件増の738件、遭難者は23人増の809人、うち死者・行方不明者は16人増の61人。遭難件数、遭難者ともに、統計が残る1968年以降で最多。

その原因の多くは、道迷い、滑落、転落、疲労、等々。そして日々、報道される山岳遭難を他人事のように捉えている登山者の多いこと。登山の基本は、「自己責任」です。

一人ひとりが自らの力量を把握して、知識を学び最新の登山技術を習得して、安全な登山の構築を心掛けているだろうか？幸い、埼玉支部で大きな事故が発生していませんが、油断は禁物です。

さて、恒例の埼玉県障害者スポーツ協会と共催で実施している大久保春美記念・第14回「ふれあい登山」は、4月6日（日）、東武東上線小川町駅から仙元山を計画しています。公益事業として、登山を通して障がい者と交流する貴重な機会でもあり、埼玉支部の一大イベントです。

また、一般登山愛好者を対象にした登山教室、第6期「埼玉やま塾」も参加者を募集中。「机上講習」、「実技登山」各4回を行ない、知識と実技を学びます。新たな仲間の入会を期待しています。

日本山岳会120周年記念事業の「全国山岳古道調査」に関して、多くの会員にご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。また、埼玉の歴史と古道に関する講演会を通して、多くの方々に山岳古道への関心を高める機会となりました。

一方、われわれを取り巻く登山環境は、高齢化と少子化により大きな変貌を遂げようとしています。埼玉支部の課題は、ベテラン登山者の高齢化に伴う指導者不在とリーダー不足。登山経験の浅い会員が活動の中心にならざるを得ない危機的状況下であり、このような環境を早急に改善する必要があります。

各委員会（山行委員会、自然保護委員会、安全登山委員会、社会貢献委員会、等々）の活動計画に、活動方針が反映されていないことが懸念されます。それは、各委員会の活動計画（案）に新たな企画への取り組みが少ないこと。参加する会員の知識や技術力がアップする、あるいはリーダー育成に繋がる企画を期待しています。

また、公益社団法人の組織であることを認識した活動の展開と関係団体への協力要請、等。広く埼玉支部の諸活動をPRすることも重要です。各委員会の企画行事への参加者が低迷する原因の解析と対策を図り、指導者不在、リーダー不足を解消するために、本年は、次の活動を展開したい。

山行委員会は、安全登山を最優先した月例山行や平日山行を企画し、会員の多様な志向に合わせた活動を実施します。

安全登山委員会は、新たに会員対象の安全登山の実技訓練（セルフレスキュー、岩場訓練、雪山訓練、等）を通して、知識・技術の習熟度に寄与する企画を展開します。また、自立した登山者の構築に向けた活動をサポートします。

自然保護委員会は、自然観察会、森づくり活動、等々。多様な公益事業活動を中心に展開します。社会貢献委員会は、埼玉県障がい者スポーツ協会と共催のふれあい登山、清掃登山活動、等の公益事業活動に取り組みます。

広報委員会は、迅速な情報の共有化が組織の活性化に繋がるものと確信し、最新情報を提供し、支部報発行及び支部ホームページの管理、オンライン会議に関する指導及び管理、等々を展開します。

活動方針（案）を遂行する原動力は、各委員会に参画する会員が自主性を持って、魅力ある委員会の構築に向けて努力を重ねていただくことです。登りたい山が安全に登れる登山者が増加すれば、個々人の登山の可能性が広がります。

これからは、日本山岳会主催の各種講習会、研修会への参加及び関連団体が主催する各技術習得（岩場・雪山訓練、指導者研修会）等々への参加は、支部委員を中心に積極的に推進し、次世代を担う指導者やリーダー育成の一助にしたいと考えています。